

第5学年3組 おおとりの時間学習指導案

平成26年6月14日(土)

授業者 関口 泰広  
授業会場 5-3教室

1 単元名 わたしたちの国「日本」ってどんな国？

2 単元目標

自ら体験・調査・交流することによって、異文化や日本の伝統文化のよさについて理解を深め自分の生活と日本の伝統文化や異文化との関わりについての意識をもち、生活しようとする。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

国際化が進む今日、これからの社会を担う児童にとって、他の国の文化を理解し、よさを受け入れていくことが求められている。本当の意味で国際理解をするためには、自国である日本の文化の理解が必要不可欠になってくる。

本校では、第4学年の社会科「私たちの埼玉県」の単元において地域の人々の暮らしに関わる学習をした。その学習を生かし、さらに私たちの国の文化に関する興味や関心を高めたい。そのために、私たちの国の文化について課題解決することで、学習を深めていく。

本校の児童は海外の旅行の経験のある者もあり、外国の生活の様子や文化について大変興味をもっている。そこで、本単元では「日本」について改めて目を向け、外国人へ向けた日本の紹介や、日本と外国の文化の比較を通して、「日本」についての興味や関心を高めるようにしたい。国際社会の中で自国のよさを言えることができる児童の育成を目指し、本単元を設定した。

(2) 展開にあたって

本単元では児童が普段何気なく言っていることや目にしているものに日本らしさを見いだし、日本のよさを実感できるようにしていきたい。そのために、「つかむ」過程では児童の実態を踏まえ、身近にある日本探しをする。そして、ALTや埼玉大学に通う留学生など、日本以外の国を知る人々との異文化交流を通して「日本」について目を向けられるようにする。

「もとめる」過程では、外国人との交流を通し、外国人から見た日本のよさについて気付けるようにしていく。そこで、「JAPANフェスタ」という交流の場を計画し、児童が、外国人に日本のよさをもっと気付いてもらいたい、という思いをもって学習に取り組めるようにする。具体的には、韓国会館のを招いて、「JAPANフェスタ」を開催していく。さらに、その過程において、日本の文化のよさについて気付けるようにしていく。

「ひろげる」過程では、探究活動を報告し合うことで、日本らしさや異文化に触れられるようにしたい。異文化と日本の文化を比べる活動を行うことで、日本らしさや異文化のよさを今後の自分の生き方に反映できるようにしていく。

4 観点別評価規準

ア 問題解決能力	イ コミュニケーションの力	ウ 自己を見つめ、自己を高めていく力
①異文化との関わりから自らの課題を見いだしている。 ②見通しをもって学習を進める中で、自らの考え方や学び方を築き上げている。	①交流や体験を共にする中で、日本の伝統文化や異文化に対して、自分の考えをもって進んで関わっている。 ②対象と自分との関係を深めている。	①日本の文化の紹介をしたり、日本の文化と異文化を比較したりすることを通して、日本の文化や異文化と自分との関わりや生き方について考えている。

5 単元の指導計画・評価計画(30時間扱い)

◎学習対象：

・私たちの国「日本」 外国の文化

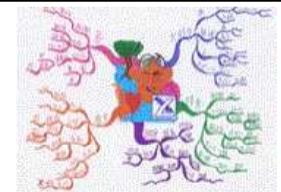
◎学習事項：

・外国人から見た日本のよさを知ること  
・他の国の文化を通して日本の文化を知る取組

◎これまでの学習との関連

・第4学年 社会科  
(私たちの埼玉県)

時数	学習活動・予想される児童の意識や姿	○指導上の留意点	評価規準 【評価方法】
1	<b>異文化について知ろう。</b> (1)外国の方から話を聞く。 ・「日本の文化と韓国の文化は違うんだね」 ・日本の文化についてわかってきた	○事前に韓国会館に訪問し、大使館教育委員の先生と話し合いをもつ。日本の文化について見つけ直し、自国の文化について語れる児童を育てたいということを伝え、韓国の文化と日本の文化を比べられるような話をしてもらうようにする。 ○事前の訪問の際に、「JAPANフェスタ」にもお越しいただけるように依頼する。 ○児童に質問したい内容を事前に考えるよう呼び掛けておく。 ○JAPANフェスタを開催するにあたり、どうやって相手に伝えていくのか考える。その際、韓国会館の先生がどのように工夫して児童に伝えていたのか分かるように後日談を動画に保存しておく。	【発言・学習記録】 ア
2	(2)韓国会館の方の話を振り返る。 ・「日本の文化と韓国の文化は違うんだね」 ・日本の文化についてわかってきた	○児童の感想を基に韓国の方の話を振り返りを行う。 ○日本の文化と韓国の文化で大きく違った話を中心に話し合い、日本独自の文化について理解できるようにしていく。	
3	<b>JAPANマインドマップをつくらう。</b> (1)マインドマップを書く。 (テーマ：韓国会館の方との交流を通して) ・「どんどん考えが広がってく」 ・他のことでも書いてみたいな	○「韓国会館の方との交流を通して」というテーマでマインドマップを書けるようにする。(資料：マインドマップの書き方) ○セントラルイメージやブランチをカラフルに描いたり、自分のイメージを絵に表したりできるように声かけする。 ○やり方のわからない児童には、会話をしながらイメージが膨らむように支援する。	【発言・学習記録】 ア
4	(2)マインドマップを書く。 (テーマ：日本のよさ) ・「どんどん考えが広がっていく」 ・日本をもっと知りたいな ・他の国との違いはどこかな	○セントラルイメージやブランチをカラフルに描いたり、自分のイメージを絵に表したりできるように声かけする。 ○やり方のわからない児童には、会話をしながらイメージが膨らむように支援する。	【発言・学習記録】 イ
5	(3)マインドマップで交流する。 ・「どんどん考えが広がってく」 ・他の国から見ると日本でどんな国なのか	○マインドマップを基に自分の考える日本について発表し合うことによって、友達の見聞からさらに日本という国について見つめることができるようにする。 ○他の国から日本はどんな国に見えるのか考えられるように発問することで、他の国の文化に対しても興味を持てるようにする。	



<p>6 <b>JAPANフェスタを開こう。</b>  (1)今の日本・これからの日本について話す。  ・「日本について伝えていこう」</p> <p>・日本について発信していこう</p>	<p>○これからの社会は、国際化が進んで行くことを伝え、自国の文化について話ができるようになることが求められていると理解できるようにする。  ○2020年に行われる「東京オリンピック」の話や海外で活躍している日本人などの話から、日本への興味や関心を高められるようにする。  ○「JAPANフェスタ」を行うことを伝える。</p>	 <p>【発言・学習記録】 ア</p>
<p>7 (2)サブタイトルを考えよう。  ・「なんだかワクワクしてきた。」</p> <p>・どうやって日本について伝えていこうか</p>	<p>○「JAPANフェスタ」のサブタイトルを決める話し合いをすることによって自分たちで進めていこうとする気持ちが高まるようにする。  ○児童中心に進めていく意識を持てるように司会者も児童が務める。</p>	 <p>【発言・学習記録】 ア</p>
<p>8 ~ 15 (3)交流会の準備をする。  ・「どうすればJAPANフェスタを成功させられるか」</p> <p>・JAPANフェスタを成功させよう</p>	<p>○韓国会館の方がどのような気持ちで話をしてくれたのかわかるように記録しておいた動画を見る。  ○身近な外国の人にアンケートしたりインタビューしたりしながら日本のよさが伝わるような「JAPANフェスタ」が目指せるようにする。  ○当日司会進行等も児童中心で行えるように役割分担を行う。  ○外国の方に事前に連絡し、当日に参加していただける人数を確認する。</p>	 <p>【行動観察】 ア・イ・ウ</p>
<p>16 (4) JAPANフェスタを行う。  ・「外国の方に伝わるかな」</p> <p>・外国の人と交流しよう</p>	<p>○積極的に児童が関わりをもって取り組むことができているか声かけする。  ○外国の方に、「JAPANフェスタ」終了後に、感想を話していただき、動画に保存しておく。</p>	 <p>【行動観察】 イ</p>
<p>17 (5)反省会を行う。  ・「JAPANフェスタは、成功したのか」</p> <p>・日本の文化をもう一度見直そう</p>	<p>○「JAPANフェスタ」をもう一度行うことを伝える。  ○動画に保存していた外国の方からの感想を聞き、「JAPANフェスタ」を、もっとよいものにしようとする意欲を高める。  ○「JAPANフェスタ」が成功したか以下に示す観点を基に振り返りを行えるようにする。  観点①【自分たちの考えた日本文化を外国の方に伝えられることができたか】  観点②【外国の方と積極的に接することができたか】  観点③【外国の方は、JAPANフェスタをどのように感じたのか】  ○振り返りを基に、次のJAPANフェスタに向けて解決すべき課題を設定する。</p>	 <p>話し合い活動の様子</p> <p>外国の方の映像（感想）</p> <p>【発言・学習記録】 ウ</p>
<p>18 <b>JAPANフェスタ2を開こう。</b>  (1)反省会を基にJAPANフェスタ2について話し合う。  ・「反省点を生かしていこう」</p> <p>・日本文化が伝わる計画を立てよう</p>	<p>○クラスで話し合った日本の文化が外国の方に伝わるように工夫できることについて考える。  ○「JAPANフェスタ」で外国の方と積極的に接することができなかった児童には、「JAPANフェスタ2」では積極的に接することができるように役割分担を考えるように呼び掛ける。</p>	<p>【行動観察】 ア</p>
<p>19 ~ 27 (2)交流会の準備をする。  ・「どうすればJAPANフェスタ2を成功させられるか」</p> <p>・JAPANフェスタ2を成功させよう</p>	<p>○外国の方に事前に連絡し、当日に参加していただける人数を確認する。  ○クラスで話し合った日本の文化が伝わるかどうか常に考えながら準備が進められるようにする。  ○課題を見出しながら進められるようにリハーサルを数回行うようにする。</p>	 <p>【行動観察】 ア・イ・ウ</p>

		  	
28	<p>(3) JAPANフェスタ2を行う。 ・「外国の方に伝わるかな」</p> <p>・外国の人と交流しよう</p>	<p>○積極的に児童が関わりをもって取り組むことができているか声をかける。 ○外国の方に、「JAPANフェスタ」終了後に、感想を話していただき、動画に保存しておく。</p>   	【行動観察】 イ
29	<p>(4) 反省会を行う。 ・「JAPAN2フェスタは、成功したのか」</p> <p>・国際交流って素晴らしい</p>	<p>○「JAPANフェスタ2」が成功したか以下に示す観点を基に振り返りを行えるようにする。 視点①【自分たちの考えた日本文化は外国の方に伝えられることができたか】 視点②【外国の方と積極的に接することができたか】 視点③【外国の方は、JAPANフェスタ2をどのように感じたのか】</p>   <p>外国の方の映像</p>	【発言・学習記録】 ウ
30	<p>日本のよさを考えよう。 ・「日本人であることに誇りがもてる」</p> <p>・日本文化って素晴らしい</p>	<p>○個人で日本について考えられるように、時間を確保しワークシートにまとめられるようにする。 ○日本の文化について話し合い、交流できるようにする。 ○作文を書き活動を振り返れるようにする。 ○日本に対して誇りがもてるような話をする。</p>	【発言・学習記録】 ウ

## 6 本時の学習指導 (本時17/30時)

### (1) 目標

第一回「JAPANフェスタ」の振り返りを基に、第二回「JAPANフェスタ」に向けた改善案を考えることができる。

### (2) 本時までの取組

児童はこれまでに、自分なりに、日本の文化のよさについて話し合ったり、日本の文化について調査をしたりしている。また、ALTや地域の外国の方との交流を実施をしてきている。そこから考えたことを基に、外国の方を招いて「JAPANフェスタ」を行った。そして、招待した方のインタビューなどを基に、取組を振り返り、一人一人が改善案を考えている。

学習活動・児童の意識	指導上の留意点(○) 評価(評) 支援の工夫(→)	時間
1 前時の学習を振り返り、本時の学習活動について確認する。 ・第一回「JAPANフェスタ」を振り返り、次回への見通しをもとう。	○本時では、第一回「JAPANフェスタ」の振り返りを基に、第二回に向けた改善案を話し合っていくことを確認する。	3'
「JAPANフェスタ」をよりよいものにするには、どうすればよいのだろうか。		
2 第二回「JAPANフェスタ」の改善案について、学級で話し合う。 ・屋台形式で様々なお店を開くのは招待した方に喜んでもらえたよ。次回も続けたいな。 ・会場にもっと日本らしい雰囲気が出せるとよかったな。 ・屋台だけではなくて、全員で何かを紹介する時間も必要じゃないかな。 ・もっと多くの外国の方に来てほしいな。	○第一回の際に、招待した外国の方に、インタビューをしたり、アンケートに答えてもらったりして、本時で活用することができるようにしておく。 ○外国の方からは、良かったことと、改善した方がよいと感じたことの両面からお話をさせていただくようにしておく。 ○児童から出た改善案は、「運営の仕方」「屋台の中身」「場づくり」など、観点別に板書していくことで、児童が次時以降の活動に繋げやすくなるようにする。 評 第二回「JAPANフェスタ」に向けた改善案を考えることができる。 →改善案がうまく考えられない児童には、アンケートやインタビューの結果を振り返り、「招待した方が喜ぶこと」を優先して考えられるようにする。	37'
3 本時のまとめをする。 ・次回もみんなで話し合っ、よりよい計画を立てたいな。	○次回は、第二回「JAPANフェスタ」の内容を決定し、準備をしていくことを伝える。	5'